

權制執行ノ停止及既ニナシタル執行處分ノ廢棄ニ付テハ第六百八十八條第六百八十九條ノ規定ヲ適用スルモノトス其執行處分ノ廢棄ハ保證ヲ得サルトキニモ亦之ヲナスコトヲ許ス

第六百九十一條 權制執行ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ停止シ又ハ制限スヘキモノトス

- 第一 執行スヘキ判決ヲ廢棄シ又ハ其假執行ヲ廢棄スルコト又ハ權制執行ヲ許スヘカラサルモノトシテ言渡シ又ハ其停止ヲ命シタルコトノ判然スル執行裁決ノ公製書ヲ呈出スルトキ
- 第二 執行又ハ執行處分ノ假停止ヲ命シタルコトノ判然スル裁判上裁決ノ公製書ヲ呈出スルトキ

第三 執行ヲ免レシムル爲メ許シタル保證又ハ藏寄ヲナシタルコトノ判然スル公製證書ヲ呈出スルトキ

第四 執行スヘキ判決ノ言渡後債主辨償ヲ得又ハ延期ヲ承諾シタルコトノ判然スル公製證書又ハ債主ノ交付シタル私製證書ヲ呈出スルトキ

第五 判決ノ言渡後債主ニ辨償スルニ必要ナル額ヲ之ニ支拂フ爲メ郵便所ニ拂込ミタルコトノ判然スル郵便受領證ヲ呈出スルトキ

第六百九十二條 第六百九十一條第一第三ノ場合ニ於テハ同時ニ既ニナシタル執行處分ヲ廢棄スヘキモノトス第四第五ノ場合ニアリテハ其處分ハ一時之ヲ存

續ス第二ノ場合ニ於テ其裁決ヲ以テ是マテナシタル
 執行處分ノ廢棄ヲモ命セザリシトキニ限り亦同シ
 第六百九十三條 負債者死去ノ際既ニ之ニ對シテ開キ
 タル權制執行ハ其遺産ニ對シ之ヲ繼續スルモノトス
 權制執行ノ際負債者ノ立會ヲ要スル場合ニ於テ未ダ
 遺産ニ相續人ナキトキ又ハ相續人又ハ其滯在地ノ分
 明ナラザルトキ執行裁判所ハ債主ノ申立ニ依リ其遺
 産又ハ相續人ニ一時特別代人ヲ任スヘキモノトス
 第六百九十四條 負債者權制執行ノ始マル前死去シタ
 ル場合ニ於テ未ダ遺産ニ相續人ナキトキ又ハ相續人
 又ハ其滯在地ノ分明ナラザルトキ各邦法律ニ依リ權
 限ヲ有スル遺産裁判所ハ債主ノ申立ニ依リ其遺産又

ハ相續人ニ管財人ヲ任スヘキモノトス
 第六百九十五條 負債者ノ相續人トナリテ敗訴ノ言渡
 ナ受ケタル被告ハ財産目錄ニ付テノ法律上特遇ヲ申
 立ルコトヲ得但被告ニ對シ判決ニ其特遇アルコトヲ
 掲ケタルトキニ限ル
 第六百九十六條 特遇相續人又ハ財産目錄ニ付テノ法
 律上特遇ヲ受ルコトヲ得ル相續人トナリテ敗訴ノ言
 渡ヲ受ケタル負債者ニ對シ又ハ敗訴シタル負債者ノ
 相續人トナリテ權制執行ヲ開カレタル負債者ニ對ス
 ル權制執行ニ方リテハ法律上特遇ニ依リ其執行ニ對
 シ相續人ニ於テ異存ヲ申立ルニ至ルマテハ其特遇ハ
 之ヲ採用セザルモノトス

特遇相續人法律上特遇ニ依リ權制執行ノ延期又ハ廢棄又ハ制限ヲ求ル權利ノ程度ハ民法ノ規定ニ從テ之ヲ定ルモノトス

異存ノ完結ハ第六百八十六條第六百八十八條第六百八十九條ノ規定ニ從ヒ之ヲナスモノトス

第六百九十七條 權制執行ノ費用ハ必要ナリシトキニ限リ(第八十七條)負債者ノ負擔ニ歸スルモノトス其費用ハ權制執行ヲ受ル請求ト同時ニ之ヲ徵收スヘキモノトス

權制執行ノ費用ハ其執行ノ憑據トナリシ判決ヲ廢棄スルトキハ之ヲ負債者ニ辨償スヘキモノトス

第六百九十八條 執行ノ爲メ官署ノ立入ヲ要スルトキ

裁判所ハ官署ニ其立入ヲ依頼スヘキモノトス

第六百九十九條 權制執行ヲ常備ノ陸海軍人ニ對シ兵營及其他軍事用建造物内又ハ軍艦ニ於テ權制執行ヲナスヘキトキ執行裁判所ハ債主ノ申立ニ依リ管轄軍事官署ニ其權制執行ヲ依頼スヘキモノトス

質取シタル物件ハ債主ノ委任スヘキ裁判所使吏ニ之ヲ引渡スヘキモノトス

第七百條 法律上補助ニ依リ獨逸裁判所ノ判決ヲ執行スル官署ノ屬スル外國ニ於テ權制執行ヲナスヘキトキハ始審ノ訴訟裁判所ハ債主ノ申立ニ依リ權限ヲ有スル外國官署ニ其權制執行ヲ依頼スヘキモノトス

獨逸領事其執行ヲナスコトヲ得ルトキハ之ニ其依頼

ヲナスヘキモノトス

第七百一條 權制執行手續ニ於テ豫メ口頭上審問ナクシテナスコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時故障ヲ申立ルコトヲ得

第七百二條 其他權制執行ハ左ニ掲ルモノニ依リ之ヲナスコトヲ得

第一 訴訟提起ノ後訴訟落著ノ爲メ其訴訟ノ全部又ハ訴訟事件ノ一部ニ付キ獨逸裁判所ニ於テ取結ヒタル和解契約

第二 第四百七十一條ノ場合ニ於テ區裁判所ニテ取結ヒタル和解契約

第三 故障ノ上訴ヲナスコトヲ得ル裁判

第四 執行命令

第五 獨逸裁判所又ハ獨逸公證人其職權内ニ於テ規定上ノ式ニ從ヒ作りタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ其他換用物又ハ有價證券ノ一定ノ數量ノ供給ニ關スル請求ニ付キ證書ヲ作り及負債者其證書ニ依リ即時權制執行ヲ受ケタルトキニ限ル

第七百三條 前條ニ掲ケタル負債名稱ニ依テナス權制執行ニハ亦第六百六十二條ヨリ第七百一條マテノ規定ヲ適用スルモノトス但第七百四條第七百五條ニ於テ之ニ違フ規定ヲ掲ケタルトキハ此限ニアラス

第七百四條 執行命令ハ之ヲ發シタル後債主又ハ負債

者ニ於テ權利相續アリタルトキニアラサレハ執行文
ヲ要セサルモノトス
請求ニ關スル異存ハ其憑據トナル理由執行命令ヲ送
達シタル後生セシトキニ限り之ヲ許スモノトス
執行文ノ交付ヲ求ル訴訟并ニ請求ニ關スル異存ヲ申
立ル訴訟又ハ執行文交付ノ際其相續シタリト認メラ
レタル權利相續ヲ爭フ訴訟ニ付テハ執行命令ヲ發シ
タル區裁判所權限ヲ有スルモノトス其請求區裁判所
ニ屬セサルトキハ訴訟ヲ權限ヲ有スル地方裁判所ニ
提起スヘキモノトス

第七百五條 裁判所ニ於テ作りタル證書ノ執行公製書
ハ其證書ヲ作りタル裁判所書記之ヲ交付スルモノト

ス

公證人ニ於テ作りタル證書ノ執行公製書ハ其證書ヲ
保管スル公證人之ヲ交付スルモノトス其證書官署ノ
保管中ニアルトキハ其官署執行公製書ヲ交付スヘシ
執行文ノ交付ニ關スル異存ニ付テノ裁決并ニ再度執
行文ヲ交付スルニ付テノ裁決ハ裁判所ノ證書ニアリ
テハ第一項ニ記載シタル裁判所之ヲナシ公證人ノ證
書ニアリテハ第二項ニ記載シタル公證人ノ役場又ハ
官署ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所之ヲナスモノトス
異議ニ關スル異存ノ申立ニハ第六百八十六條第二項
ノ制限ヲ適用セサルモノトス
執行文ノ交付ヲ求ル訴訟并ニ請求ニ關スル異存ヲ申

立ル訴訟又ハ執行文交付ノ際證明シタリト認メラレタルモノニシテ證書ニ依テナス權制執行ノ定マル事實ノ生シタルコト又ハ其相續シタリト認メラレタル權利相續ヲ争フ訴訟ニ付テハ負債者獨逸國ニ於テ普通裁判管轄ヲ有スル裁判所其權限ヲ有シ其裁判所ナキトキハ第二十四條ニ從ヒ負債者ニ對シ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル裁判所其權限ヲ有スルモノトス

第七百六條 各邦法律ハ第六百四十四條第七百二條ニ掲ケタルヨリ他ノ負債名稱ニ依リ裁判所ノ權制執行ヲ許シ及其許シタル範圍内ニ於テ此法ノ權制執行ニ付テノ規定ニ違フ規定ヲ設ルモ妨ケナシ

前項ノ規定ハ書入質證書書入質負債證書書入質證書

等ニモ亦之ヲ適用ス

第七百七條 此篇ニ定メタル裁判管轄ハ之ヲ特別ノモノナリトス

第二章 金錢要求ニ付テノ權制執行

第一節 動産ニ關スル權制執行

第一 通則

第七百八條 動産ニ關スル權制執行ハ質取ヲ以テ之ヲナスモノトス其執行ハ債主ニ辨償シ及其執行費用ニ引當ル爲メ必要ナルモノ、外ニ及スコトヲ許サス

其質取ハ質取スヘキ物件ヲ賣却シ權制執行ノ費用ヲ償フテ尙ホ剩餘アルコトヲ期スヘカラサルトキハ之ヲ止ムヘキモノトス

第七百九條 債主ハ質取ニ依リ其質取シタル物件ニ付
 キ質主權ヲ得ルモノトス
 此質主權ハ其債主ニ對シ他ノ債主トノ關係ニ於テハ
 契約ニ依テ得タル現物質主權ト同一ノ權ヲ與フルモ
 ノトス又其質主權ハ倒産ノ場合ニ於テ現物質主權ト
 同視スヘカラサル質主權及先取權ニ先行スルモノトス
 前質取ニ依テ生シタル質主權ハ其後ノ質取ニ依テ生
 シタル質主權ニ先行スルモノトス
 第七百十條 物件ヲ現有セサル他人ハ質主權又ハ先取
 權ニ依リ物件ノ質取ニ對シ抗辯ヲナスコトヲ得ス但
 其他人ハ要求ノ期ニ至リタルト否トヲ問ハス訴訟ヲ
 以テ賣得金ヨリ最初ニ辨償ヲ受ルノ請求ヲナスコト

ヲ得

其訴訟ハ之ヲ執行裁判所ニ提起シ訴訟事件區裁判所
 ノ權限ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄
 スル地方裁判所ニ提起スヘキモノトス
 其訴訟ヲ債主及負債者ニ對シテナストキハ此者等ハ
 之ヲ訴訟仲間ト看做スヘキモノトス
 其請求ヲ證明スルトキ裁判所ハ賣得金ノ藏寄ヲ命ス
 ヘキモノトス第六百八十八條及第六百八十九條ノ規
 定ハ此場合ニモ亦之ヲ適用ス
 第七百十一條 質取ヲ以テ債主ニ充分ノ辨償ヲナスニ
 足ラサリシトキ又ハ債主其質取ニ依リ自己ノ受クヘ
 キ辨償ヲ皆濟スル能ハサルコトヲ證明スルトキ負債

者ハ申立ニ依リ其財産目錄ヲ呈示シ其要求ニ關スル理由及證據物ヲ記載シ并ニ左ノ明告宣誓ヲナスノ義務アルモノトス
負債者ハ其財産ヲ悉皆記載シ知リツ、何事ヲモ黙秘セザリキ

第二 物件ニ關スル權制執行

第七百十二條 負債者ノ保管中ニアル物件ノ質取ハ裁判所使吏其物件ヲ現有シテ之ヲナスモノトス
其物件ハ債主ノ承諾アルトキ又ハ他ノ處分ヲナスニ付キ著大ノ困難アルトキニ限り之ヲ負債者ノ保管ニ任カスヘキモノトス此場合ニ於テハ印ヲ捺シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ質取ヲ知了シ易カラシムルニアラサ

レハ質取ノ効力ヲ有セサルモノトス
裁判所使吏ハ質取ヲナシタルコトヲ負債者ニ通知スヘキモノトス

第七百十三條 前諸條ノ規定ハ債主又ハ呈出スルノ意アル他人ノ保管中ニ存スル物件ノ質取ニモ亦之ヲ適用スルモノトス

第七百十四條 收穫ハ未タ土地ヨリ分離セサル前ト雖之ヲ質取スルコトヲ得其質取ハ通例ノ成熟期限前一月ヨリ早ク之ヲナスコトヲ許サス

第七百十五條 左ノ物件ハ之ヲ質取セサルモノトス
第一 衣類、寢具、家具、廚具、殊ニ煖爐及竈爐但其物件
負債者其家族及傭人ノ爲メニ必要ナルトキニ限

- 第二 負債者其家族及備人ノ爲メ二週間必要ナル
飲食物及火料
- 第三 乳牛一頭又ハ負債者ノ撰ニ依リ乳牛ノ代ニ
山羊二頭又ハ綿羊二頭及其飼養又ハ廠敷ノ爲メ
二週間必要ナル飼料及藁但其動物負債者其家族
及備人ノ榮養ノ爲メニ必要ナルトキニ限ル
- 第四 美術家、手職人、手細工人及製造所勞役者并ニ
穩婆ニアリテハ本人其職業ヲ執行スル爲メ必要
ナル物件
- 第五 農業ヲナス者ニアリテハ農業ノ爲メ必要ナ
ル器具、家蓄及田野ノ儲藏及肥料并ニ次ノ收獲マ

テ農業ヲ繼續スル爲メ必要ナル農産物

- 第六 將校、海軍下士官、官吏、僧侶、公立教育場ノ教師、
代言人、公證人及醫師ニアリテハ其職務ヲ管理シ
又ハ其職業ヲ執行スル爲メ必要ナル物件并ニ身
分相當ノ著類
- 第七 將校、軍醫、海軍下士官、官吏、僧侶及公立教育場
ノ教師ニアリテハ質取ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給
ノ支拂マテノ時間ニ於テ職務上收入又ハ恩給ノ
質取ヲ受ケサル部分ニ相當スル金額
- 第八 調藥ヲナス爲メ必要ナル器具、容器及商品
- 第九 勳賞及賞牌
- 第十 寺院又ハ學校ニ於テ負債者及其家族ノ使用

第七百十六條 質取シタル物件ハ裁判所使吏之ヲ公賣ニ付スヘキモノトス高價物ハ公賣前鑑定人ヲ以テ評價セシムヘシ

質取シタル金銭ハ債主ニ之ヲ引渡スヘキモノトス裁判所使吏ノナス金銭質取ハ負債者ヨリ支拂ヒタルモノト看做ス但保證又ハ藏寄ヲ得テ執行ヲ免ル、コトヲ負債者ニ許シタルトキハ此限ニアラス

第七百十七條 質取シタル物件ノ公賣ハ質取ノ日ヨリ一週ヲ經過スル前ニ之ヲナスコトヲ許サス但債主及負債者此期限前ノ公賣ニ付キ同意スルトキ又ハ公賣スヘキ物件ノ價額ヲ著ク減少スルノ危険ヲ防カンカ

爲メ又ハ長ク儲藏スルニ依テ生スル不相當ノ費用ヲ避ルカ爲メ其期日前ノ公賣ヲ要スルトキハ此限ニアラス

公賣ハ質取ヲホシタル町村内ニ於テ之ヲナスモノトス但債主及負債者其他ノ地ニ於テナスコトニ付キ同意スルトキハ此限ニアラス

公賣ノ時及場所ハ公賣スヘキ物件ヲ概記シテ公告スヘキモノトス

第七百十八條 最高糶買人ニ當ルヘキ糶落ハ三回號呼シタル後之ヲナスモノトス

糶落シタル物件ノ引渡ハ現金支拂ト引換ニアラサレハ之ヲナスコトヲ許サス

最高糶買人公賣規約ニ定メタル期日又ハ其定メナキトキハ公賣期日ノ終ル前代金支拂ニ引換ヘ引渡ヲ求メサルトキハ其物件ヲ更ニ公賣ニ付スルモノトス其最高糶買人ハ再ヒ糶買ニ加ハルコトヲ許サス其賣得金ノ不足額ニ付キ責任ヲ負擔スルモ増額ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百十九條 公賣ハ賣得金ヲ以テ債主ニ辨償シ及權制執行費用ニ引當ル爲メ充分ナルトキハ直ニ之ヲ停止スルモノトス

第七百二十條 裁判所使吏ノ賣得金領収ハ之ヲ負債者ヨリ支拂ヒタルモノト看做ス但保證又ハ藏寄ヲ得テ執行ヲ免レシムルコトヲ負債者ニ許シタルトキハ此

限ニアラス

第七百二十一條 金銀ノ物件ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニテ糶落スコトヲ許サス其糶落ヲ許シタル糶買人ナサ、ルトキ裁判所使吏ハ其金銀ノ實價ニ達スル代價ヲ以テ自由ニ賣却ヲナスコトヲ得

第七百二十二條 裁判所使吏ハ質取シタル有價證券相場會所又ハ市場ノ相場ヲ有スルモノナルトキハ其日ノ相場ヲ以テ自由ニ賣却シ其相場ヲ有セサルトキハ一般ノ規定ニ從ヒ公賣スヘキモノトス

第七百二十三條 記名ノ有價證券ナルトキ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲサシメ及之カ爲メ必要ナル陳述ヲ負債者ニ代リナスノ權利ヲ裁判使吏ニ與フル

コトヲ得

第七百二十四條 無記名證券氏名ノ登記又ハ其他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メラレタルトキ裁判所ハ其流通恢復ヲナサシメ及之カ爲メ必要ナル陳述ヲ負債者ニ代リナスノ權利ヲ裁判所使吏ニ與フルコトヲ得

第七百二十五條 質取シタルモ未タ土地ヨリ分離セサル收獲ノ公賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲナスコトヲ許スモノトス其公賣ハ其收獲ノ分離前又ハ後ニ之ヲナスコトヲ得其分離後ノ場合ニ於テハ裁判所使吏ハ其收獲ヲナサシムヘシ

第七百二十六條 債主又ハ負債者ノ申立ニ依リ執行裁判所ハ質取シタル物件ノ賣却ヲ前諸條ニ定メタルヨ

リ他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テナスヘキコト又ハ公賣ヲ裁判所使吏ヨリ他ノ者ニナサシムヘキコトヲ命ズルヲ得

第七百二十七條 既ニ質取シタル物件ノ質取ハ裁判所使吏其囑託者ノ爲メニ其物件ヲ質取スルコトヲ陳述シテ之ヲナスモノトス其陳述ハ之ヲ筆記スヘシ

他ノ裁判所使吏最初ノ質取ヲナシタルトキハ之ニ其筆記ノ謄本ヲ送達スヘキモノトス

負債者ニハ再度ノ質取ヲ知了セシムヘキモノトス

第七百二十八條 執行裁判所關係セル債主一名ノ申立又ハ負債者ノ申立ニ依リ最初質取ヲナシタル裁判所使吏ノ事務ヲ他ノ裁判所使吏ニ於テ引受クヘキコト

ヲ命セザルトキニ限り第二債主ノ囑託ハ最初ノ裁判所使吏ニ法律上移轉スルモノトス其公賣ハ關係ヲ有スル總テノ債主ノ爲メニ之ヲナス
 賣得金要求ニ引當ルニ足ラサル場合ニ於テ第二又ハ其後質取ヲナシタル債主其他ノ關係セル債主ノ承諾ヲ得スシテ質取ノ順序ニ戻リ分配ヲ請求スルトキ裁判所使吏ハ賣得金ヲ藏寄シテ其事狀ヲ執行裁判所ニ届出ツヘキモノトス其届出ニハ處分ニ關スル書類ヲ添フヘシ
 質取ヲ數名ノ債主ノ爲メ同時ニナシタルトキ亦同一ノ方法ヲ以テ處分スヘキモノトス

第三 要求及其他ノ財産權ニ關スル權制執行

第七百二十九條 要求及其他ノ財産權ニ關スル權制執行ニ付テノ裁判上處分ハ執行裁判所之ヲナスモノトス
 其執行裁判所タルノ權限ヲ有スルモノハ負債者獨逸國內ニ其普通裁判管轄ヲ有スル區裁判所ナリトシ其裁判所ナキトキハ第二十四條ニ從ヒ負債者ニ對シ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル區裁判所ナリトス

第七百三十條 金錢要求ヲ質取スヘキトキ裁判所ハ他ノ負債者ニ對シ負債者ニ支拂フコトヲ禁スヘキモノトス同時ニ裁判所ハ負債者ニ對シ要求ニ付テノ各處分特ニ其取立ヲナスヘカラサルノ命令ヲ發スヘシ
 債主ハ決議書ヲ他ノ負債者ニ送達セシムヘキモノト

ス裁判所使吏ハ公告紙ヲ以テ送達スルコトヲ要セサルトキニ限り其決議書ト送達證書ノ謄本トヲ負債者ニ即時送達スヘシ他ノ負債者ニナス送達ヲ裁判所書記ノ直接ノ依頼ニ依リ郵便所ニ於テナシタルトキ裁判所書記ハ負債者ニナス送達ニ付テモ亦同一ノ方法ヲ以テナスヘシ外國ニ於テ負債者ニナスヘキ送達ハ郵便所ニ託シテナス送達ヲ以テ之ニ換フ
 質取ハ他ノ負債者ニナス決議書ノ送達ト共ニ之ヲナシタルモノト看做スヘキモノトス
 第七百三十一條 要求ノ質取ヲ書入質帳ニ記入スルノ程度及其記入ヲナスヘキ方法ハ各邦法律ヲ以テ之ヲ定ルモノトス

第七百三十二條 爲換手形其他裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得ル證券ヨリ生ズル要求ノ質取ハ裁判所使吏其證券ヲ現有シテ之ヲナスモノトス
 第七百三十三條 俸給ノ要求又ハ之ニ類スル經常收入ノ要求ノ質取ニ依テ得ル質主權ハ質取後支拂期限ノ來ル金額ニモ亦及フモノトス
 第七百三十四條 職務上收入ノ質取ハ負債者轉職又ハ任職又ハ増給ニ依リ受取ルヘキ收入額ニモ亦及フモノトス
 此規定ハ授職者ノ變更スル場合ニハ之ヲ適用セザルモノトス
 第七百三十五條 質取ヲナスノ前負債者ハ其質取申立

ニ付キ尋問セラレザルモノトス

第七百三十六條 質取シタル金銭要求ハ債主ノ撰定ニ從ヒ現金取立ノ爲メ又ハ支拂ニ代ヘ券面額ニテ之ニ移付スヘキモノトス

此終リノ場合ニ於テ要求ハ債主ニ移轉シ債主ハ其要求ノ存スル部分ニ限り負債者ニ對スル要求ニ付キ辨償ヲ受ケタルモノト看做サルヘキノ効力アルモノトス

第七百三十條第二項ノ規定ハ亦之ヲ適用ス
第七百三十七條 其移付ハ民法ノ規定ニ從ヒ要求ヲ取立ル權利ノ定マル負債者ノ法式上陳述ニ代ハルモノトス

負債者ハ要求ニ付テ存スル證書ヲ債主ニ呈出スルノ義務アルモノトス其呈出ハ債主權制執行ヲ以テ之ヲナサシムルコトヲ得

第七百三十八條 第六百五十二條第二項ニ從ヒ保證又ハ藏寄ヲ得テ權制執行ヲ免レシムルコトヲ負債者ニ許シタルトキ其質取シタル金銭要求ノ移付ハ現金取立ノ爲メニシテ負債者其負債額ヲ藏寄スルノ効力ヲ以テノミ之ヲナスコトヲ得

第七百三十九條 債主ノ求メニ依リ他ノ負債者ハ質取決議書ノ送達ヨリ起算シ二週内ニ債主ニ左ノ陳述ヲナスヘキモノトス

第一 他ノ負債者其要求ヲ理由アリトスルノ承認

及其支拂ヲサントスル意ノ有無及程度

第三 其要求ニ付キ他人ノナス請求ノ有無及種類

第三 其要求既ニ他ノ債主ノ爲メニ質取セラレタ

ルコトノ有無及其要求ヲ質取セシメタル請求ノ

種類

此陳述ヲサシムル爲メノ督促ハ之ヲ送達證書ニ記

載スヘキモノトス他ノ負債者ハ其義務ヲ盡サ、ルニ

依リ生スル損害ニ付キ債主ニ對シ其責ヲ負擔ス

他ノ負債者ノ陳述ハ質取決議書ヲ送達スルノ際又ハ

第一項ニ定メタル期限内ニ裁判所使吏ニ之ヲナスコ

トヲ得最初ノ場合ニ於テハ其陳述ヲ送達證書ニ記載

シ他ノ負債者署名スヘキモノトス

第七百四十條 要求ニ付キ出訴スル債主ハ負債者ニ裁

判上訴訟ヲ通知スルノ義務アルモノトス但外國ニ於

テスル送達又ハ公告ヲ以テスル送達ヲ要スルトキハ

此限ニアラス

第七百四十一條 現金ヲ取立ル爲メ移付セラレタル要

求ノ取立ヲ遅延スル債主ハ負債者ニ對シ其遅延ニ依

テ生スル損害ニ付キ其責ヲ負擔スルモノトス

第七百四十二條 債主ハ其請求ヲ毀損スルコトナクシ

テ質取ニ依リ及現金取立ノ爲メニスル移付ニ依リ得

タル權利ヲ拋棄スルコトヲ得其拋棄ハ負債者ニ送達

スヘキ陳述書ヲ以テ之ヲナスモノトス其陳述書ハ他

ノ負債者ニモ亦之ヲ送達スヘシ

第七百四十三條 質取シタル要求設若又ハ有期ノモノナルトキ又ハ報償ヲナスニアラサルハ其要求ヲ取立ルコトヲ得ザルカ爲メ又ハ其他ノ理由ニ依リ取立難キトキ裁判所ハ申立ニ依リ移付ニ代ヘ他種ノ賣却ヲ命スルコトヲ得

其申立ヲ採用スル決議前對手ハ尋問セラルヘキモノトス但外國ニ於テスル送達又ハ公告ヲ以テスル送達ヲ要スルトキハ此限ニアラス

第七百四十四條 質取前既ニ債主ハ執行スルコトヲ得ル負債名稱ニ依リ裁判所使吏ヲシテ他ノ負債者ニ對シテハ負債者ニ支拂ヲナスヘカラサルコトノ督促負債者ニ對シテハ要求ニ付テノ各處分特ニ其取立ヲナ

スヘカラサルコトノ督促ト共ニ質取ヲナサントスルノ通知ヲ他ノ負債者及負債者ニ送達セシムルコトヲ得

他ノ負債者ニナス通知ハ要求ノ質取ヲ三週内ニナストキニ限り押置(第八十條)ノ効力ヲ有スルモノトス其期限ハ通知書ヲ送達シタル日ヲ以テ始マル

第七百四十五條 物件ノ呈出又ハ供給ニ付テノ請求ニ關スル權制執行ハ以下數條ヲ斟酌シテ第七百三十條ヨリ第七百四十四條マテノ規定ニ從ヒ之ヲナスモノトス

第七百四十六條 動物件ニ關スル請求ノ質取ニアラズハ其物件ヲ債主ノ委任スヘキ裁判所使吏ニ呈出スヘ

キコトヲ命スヘキモノトス
其物件ノ賣却ニ付テハ質取シタル物件ノ賣却ニ付テ
ノ規定ヲ適用スルモノトス

第七百四十七條 不動産物件ニ關スル請求ノ質取ニアリ
テハ其物件ヲ債主ノ申立ニ依リ其物件所在地ノ區裁
判所ヨリ任スヘキ保管人ニ呈出スヘキコトヲ命スヘ
キモノトス

呈出シタル物件ニ關スル權制執行ハ不動産物件ニ關ス
ル權制執行ニ付テノ現行規定ニ從ヒ之ヲナスモノト
ス

第七百四十八條 支拂ニ代ヘテナス第七百四十五條ニ
記載シタル請求ノ移付ハ之ヲ許サ、ルモノトス

第七百四十九條 左ニ掲ルモノハ之ヲ質取セザルモノ
トス

第一 千八百六十九年六月二十一日ノ獨逸法律(千
八百六十九年ノ獨逸法律誌第二百四十二葉及千
八百七十一年ノ同法律誌第六十三葉)ノ規定ニ從
フヘキ勞役賃及傭賃

第二 法律上ノ規定ニ依テ生スル給育料要求

第三 負債者義捐金ヨリ受取り又ハ其他他人ノ救
恤及施與ニ依リ受取ル經常收入但負債者自己其
婦及未ダ生計ノ資料ヲ受ケサル子女ニ缺クヘカ
ラサル生計費ヲ支出スル爲メ其收入ヲ要スルト
キニ限ル

第四 疾病貯金所、救助貯金所又ハ死亡貯金所特ニ
鑛業職工貯金所及鑛業職工組合貯金所ヨリ受取
ルヘキ収入

第五 下士官及兵卒ノ給料及老兵恩給

第六 出戦ノ軍隊又ハ戦役ニ服シタル軍艦乗組員
ニ属スル軍人軍属ノ職務上収入

第七 寡婦及孤兒ノ恩給及寡婦貯金所及孤兒貯金
所ヨリ受取ルヘキ収入、教育金及學費助成金并ニ
癡人トナリタル勞役者ノ恩給

第八 將校、軍醫及海軍下士官、官吏、僧侶、公立教育場
教師ノ職務上収入、一時又ハ永久休職トナリタル
後此等ノ者ノ恩給并ニ此等ノ者ノ死後其遺族ニ

與ヘラルヘキ死亡給又ハ特賜金

第七第八ノ場合ニ於テ職務上収入、恩給其他ノ収入一
年間ニ千五百マルクノ額ヲ超ユルトキハ其超過額ノ
三分一ハ質取セラル、モノトス

私事ノ役務ニ常任セラレタル人(千八百六十九年六月
二十一日ノ獨逸法律第四條第四)ノ給料及役務上収入
ハ其總額一年間ニ千五百マルクヲ超ユル部分ニ限り
質取セラル、モノトス

前兩項ノ場合ニ於テハ訴訟提起後ノ時間及訴訟提起
前最終ノ三月間支給スヘキ養育金ニ付キ負債者ノ婦
及婚姻内ノ子女ニ辨償スル爲メ質取ヲ申立ルトキハ
其金額ニ拘ラス質取ヲナスコトヲ許スモノトス

職務上費用ノ支辨ニ供スル收入及將校軍醫及軍屬ノ官宅料ハ質取セラル、コトナク及職務上支入ノ質取セラルヘキモノナルヤ及幾許額マテ質取セラルヘキモノナルヤヲ索知スルノ際之ヲ算入セサルモノトス

第七百五十條 金錢要求ヲ數名ノ債主ノ爲メニ質取シタルトキ他ノ負債者ハ最初ニ送達ヲ受ケタル決議ヲナセシ區裁判所ニ事狀ヲ届出テ及送達ヲ受ケタル決議書ヲ交付シテ負債額ヲ藏寄スルノ權利ヲ有シ及要

求ヲ移付セラレタル債主ノ求メニ依テハ其藏寄ヲナスノ義務ヲ有スルモノトス

第七百五十一條 動物件ニ關スル請求ヲ數名ノ債主ノ爲メニ質取シタルトキ他ノ負債者ハ最初ニ送達ヲ受

ケタル決議書ニ從ヒ物件領收權ヲ有スル裁判所使吏ニ事狀ヲ届出テ及送達ヲ受ケタル決議書ヲ交付シテ其物件ヲ呈出スルノ權利ヲ有シ及請求ヲ移付セラレタル債主ノ求メニ依テハ其呈出ヲナスノ義務ヲ有スルモノトス債主其裁判所使吏ヲ指名セサルトキ其指名ハ他ノ負債者ノ申立ニ依リ物件ヲ呈出スヘキ地ノ區裁判所之ヲナスモノトス

賣得金要求ニ引當ルニ足ラス第二又ハ其後ニ質取ヲナサシメタル債主他ノ關係スル債主ノ承諾ナクシテ質取ノ順序ニ戻リ分配ヲ求ルトキ裁判所使吏ハ他ノ負債者最初ニ送達ヲ受ケタル決議ヲナセシ區裁判所ニ賣得金ヲ藏寄シテ事狀ヲ届出ツヘキモノトス此届

出ニハ其手續ニ關スル書類ヲ添フヘシ

數名ノ債主ノ爲メ同時ニ質取ヲナシタルトキモ亦同

一ノ方法ヲ以テ處分スヘキモノトス

第七百五十二條 請求不動産物件ニ關スルトキ他ノ負債者ハ其物件所在地ノ區裁判所ヨリ任セラレタル保管人又ハ他ノ負債者ノ申立ニ依リ任セラルヘキ保管人ニ事狀ヲ届出及送達ヲ受ケタル決議書ヲ交付シテ其物件ヲ呈出スルノ權利ヲ有シ及請求ヲ移付セラレシ債主ノ求メニ依テハ其呈出ヲナスノ義務ヲ有スルモノトス

第七百五十三條 請求ヲ移付セラレタル各債主ハ他ノ負債者ニ對シ第七百五十條ヨリ第七百五十二條マテ

ノ規定ニ從ヒ其負債者ノ負擔セル義務ヲ盡サシムルノ訴訟ヲ提起スルノ權アルモノトス

請求ヲ質取セシメタル各債主ハ訴訟中何時タリトモ

訴訟仲間トナリテ原告ニ附隨スルコトヲ得

他ノ負債者ハ訴訟ヲ提起セス及原告ニ附隨セザリシ

債主ヲ口頭上審問ノ爲メニスル裁判期日ニ喚出スヘ

キモノトス

訴訟ヲ以テ申立テタル請求ニ付テノ訴訟中ニ言渡ス

裁決ハ債主總員ノ利トナリ及不利トナルノ効アルモ

ノトス

口頭上審問ノ爲メニスル裁判期日ニ他ノ負債者ヨリ

喚出ヲ受クヘカリシモ之ヲ受ケザリシ債主ニ對シテ

其他ノ負債者自己ノ利トナル裁決ヲ引用スルコトヲ得ス

第七百五十四條 其他ノ財産權ニシテ不動産ニ關スル權制執行ノ物件ニアラサルモノニ對シテナス權制執行ニモ亦前數條ノ規定ヲ適用スルモノトス
他ノ負債者現在セサルトキ質取ハ財産權ニ付テノ各處分ヲナスヘカラサルコトノ命令ヲ負債者ニ送達シタル時ヲ以テ之ヲナシタルモノト看做スヘキモノトス
裁判所ハ權利執行ニ付テノミ賣讓スルコトヲ得ル權利ニ關スル權制執行ニアリテハ特別ノ命令ヲ發スルコトヲ得特ニ使用權ニ關スル權制執行ニアリテハ管

理ヲ命スルコトヲ得此場合ニ於ケル質取ハ決議書ヲ送達シテ豫メサ、ルトキニ限り使用スヘキ物件ヲ管理人ニ引渡シテ之ヲナスモノトス
權利ノ賣讓ヲ許シタルトキハ此賣讓モ亦裁判所之ヲ命スルコトヲ得

第二節 不動産ニ關スル權制執行

第七百五十五條 地所ニ關スル權制執行ニ付テハ其地所所在ノ地ヲ管轄スル區裁判所執行裁判所タルノ權限ヲ有スルモノトス

權制執行ハ其裁判所申立ニ依リ之ヲ命スルモノトス
第七百五十六條 數個ノ區裁判所管轄地ノ境界ニ付キ孰レノ區裁判所ニ權限アルヤノ不明ナルトキ又ハ其

地所數個ノ區裁判所ノ管轄地ニ所在スルトキハ關係者一名ノ申立ニ依リ一級上階ノ裁判所第三十六條ノ規定ヲ斟酌シテ其裁判所ノ一ヲ執行裁判所ニ任スヘキモノトス

此命令ハ同一ノ負債者ニ屬スル數個ノ地所ニシテ數個ノ區裁判所ノ管轄地ニ所在スルモノニ關シ權制執行ヲ求ルノ申立ヲナストキニモ亦之ヲ發スルコトヲ得

第七百五十七條 不動産ニ關スル權制執行ハ其執行ト附帶スル督促手續及分配手續ヲ併セ各邦法律ヲ以テ之ヲ定ルモノトス
各邦法律ハ特ニ權制執行ニ付キ不動産ニ屬スル事件

及權利ノ種類并ニ債主其要求ヲ書入質帳ニ記入セシムヘキ權利ノ程度及其記入ヲナスヘキ方法ヲモ亦之ヲ定ルモノトス
權制執行ニ關スル手續ニ於テ特別ノ裁判手續ヲ以テ完結スヘキ訴訟ノ起ルトキハ此法ノ規定ニ從ヒ之ヲ完結スルモノトス分配ノ訴訟ニモ亦第七百六十五條ヨリ第七百六十八條マテノ規定ヲ適用ス

第三節 分配手續

第七百五十八條 分配手續ハ動産ニ關スル權制執行ニ方リ關係スル債主ノ辨償ニ充ルニ不足スル金額ヲ藏寄スルトキ之ヲナスモノトス

第七百五十九條 權限ヲ有スル區裁判所(第七百二十八

條第七百五十條ヨリ第七百五十二條マテハ事狀ニ付テノ届出ヲ受ケタル後關係スル各債主ニ對シ二週内ニ元金、利子及費用ニ付テノ要求及附帶要求ノ計算書ヲ呈出スヘキノ督促ヲ發スヘキモノトス

第七百六十條 此二週ノ期限經過ノ後裁判所ハ分配案ヲ調製スルモノトス

其分配手續ノ費用額ハ分配額ノ中ヨリ第一ニ之ヲ引去ルヘキモノトス

分配案ヲ調製スルマテ其受ケタル督促ニ應セサル債主ノ要求ハ届出及其憑據書類ニ從テ之ヲ計算スルモノトス後日ニ至リ要求ノ補充ヲナスコトヲ得ス

第七百六十一條 裁判所ハ分配案ニ付テ陳述ヲナサシ

メ并ニ分配ヲ實行スルカ爲メ期日ヲ定ムヘキモノトス其分配案ハ關係者ニ展覽セシムルカ爲メ遅クトモ其期日ノ三日前ニ之ヲ裁判所書記局ニ備置クヘシ其期日ノ爲メニスル負債者ノ喚出ハ外國ニ於テスル送達又ハ公告ヲ以テスル送達ニ依リナスヘキトキハ之ヲ要セサルモノトス

第七百六十二條 其期日ニ於テ分配案ニ對シ抗辯ヲナサ、ルトキハ其案ヲ實行スヘキモノトス其抗辯ヲナストキハ之ニ關係セル各債主即時ニ陳述ヲナスヘシ關係者其抗辯ヲ理由アリト承認スルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ協議調フトキハ之ニ從テ分配案ヲ更正スヘシ抗辯ヲ完結セサルトキハ抗辯ヲ受ケサル部分ニ限

リ分配案ノ實行ヲナスモノトス
 第七百六十三條 其期日ニ出廷セス及其期日前裁判所ニ抗辯ヲナサル債主ニ對シテハ分配案ノ實行ニ同意シタルモノト看做ス
 其期日ニ出廷セサル債主他ノ債主ノナシタル抗辯ニ參加シタルトキハ其抗辯ヲ理由アリト承認セサルモノト看做ス
 第七百六十四條 抗辯スル債主ハ豫メ督促ヲ受ルコトナクシテ分配期日ト共ニ始マル一月ノ期限内ニ關係スル債主ニ對シテ訴訟ヲ提起シタルコトヲ裁判所ニ證明スヘキモノトス此期限空ク經過シタル後ハ抗辯アルニ拘ハラズ分配案ノ實行ヲ命ス

分配案ニ對シ抗辯シタル債主ニ於テ其案ニ從ヒ金額ヲ受領シタル債主ニ對シテ訴訟ヲ以テ先行權ヲ申立ルノ權ハ期限ノ懈怠及分配案ノ實行ニ依リ喪失セサルモノトス
 第七百六十五條 其訴訟ハ分配裁判所ニ之ヲ提起シ訴訟事件區裁判所ノ權限ニ屬セサルトキハ分配裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ之ヲ提起スヘキモノトス
 地方裁判所ハ申立ヲナシタルモ分配期日ニ完結セザリシ抗辯ノ主旨ニ從ヒ一訴訟ニ付テノミ權限ヲ有スルトキト雖總テノ訴訟ニ付キ權限ヲ有スルモノトス但關係債主ノ總員總テノ抗辯ニ付キ分配裁判所ニ於

テ裁決スヘキコトヲ契約スルトキハ此限ニアラス
 第七百六十六條 申立テタル抗辯ニ付キ裁決ヲナス判
 決ニハ同時ニ分配額ノ争ヒトナリタル部分ヲ孰レシ
 債主ニ幾許額ヲ以テ辨償スヘキヤヲ定ムヘキモノトス
 之ヲ定ルコトヲ不當ト認ルトキハ判決ニ於テ新分配
 案ノ調製及其他ノ方法ニ於ケル分配手續ヲ命スヘシ
 第七百六十七條 抗辯スル債主ニ對シテナス懈怠判決
 ニアリテハ其抗辯ヲ取下ケタルモノト看做スヘキコ
 トヲ言渡スヘキモノトス

第七百六十八條 分配裁判所ハ言渡シタル判決ニ依リ
 辨償又ハ其他分配手續ヲ命スルモノトス
 第三章 物件ノ呈出ヲサシメ及應行ヲサシメ

又ハ不應行ヲサシメサル爲メノ權制執行

第七百六十九條 負債者動物件ヲ呈出シ又ハ一定ノ動
 物件ノ數量ヲ呈出スヘキトキハ裁判所使吏其物件ヲ
 負債者ヨリ取上ケテ債主ニ交付スヘキモノトス
 呈出スヘキ物件ノ現在セサルトキ負債者ハ債主ノ申
 立ニ依リ左ノ明告宣誓ヲナスノ義務アルモノトス
 負債者ハ物件ヲ現有セス亦物件ノ所在ヲ知了セス
 裁判所ハ事件ノ現狀ニ應シ其宣誓式ノ變更ヲ議決ス
 ルコトヲ得

第七百七十條 負債者換用物又ハ有價證券ノ一定ノ數
 量ヲ供給スヘキトキハ亦第七百六十九條第一項ノ規
 定ヲ適用スルモノトス

第七百七十一條 負債者不動産物件又ハ居住ニ供シタル船舶ヲ呈出シ又ハ放讓シ又ハ明渡スヘキトキハ裁判所使吏負債者ヲ其現有ヨリ引放シ債主ニ現有セシムヘキモノトス

權制執行ノ物件ニ属セサル動物件ハ裁判所使吏之ヲ取除キテ負債者ニ交付シ又ハ其處分ニ任カシ負債者不在ナルトキハ其代人又ハ負債者ノ家族ニ属スル成丁者又ハ其家族ノ雇使スル成丁者ニ交付シ又ハ其處分ニ任カスモノトス

負債者及前項ニ記シタル人ノ一名現在セサルトキハ裁判所使吏負債者ノ費用ヲ以テ其物件ヲ質取物儲藏所ニ入置シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ保管スヘキモノトス

ス

負債者其還付ノ請求ヲ遲延スルトキ執行裁判所ハ其物件ヲ賣却シテ其賣得金ヲ藏寄スルコトヲ命スルヲ得

第七百七十二條 呈出スヘキ物件他人ノ保管中ニアルトキハ債主ノ申立ニ依リ金錢要求ノ質取ニ關スル規定ニ從ヒ物件呈出ニ付テノ負債者ノ請求ヲ其債主ニ移付スヘキモノトス

第七百七十三條 負債者他人ヲ以テナサシムルコトヲ得ル行爲ヲナスノ義務ヲ盡カ、ルトキ始審ノ訴訟裁判所ハ申立ニ依リ負債者ノ費用ヲ以テ其行爲ヲナサシムルノ權ヲ債主ニ與フヘキモノトス

債主ハ同時ニ其行爲ヲナスニ依リ生スヘキ費用ヲ豫
以負債者ニ辨償セシムルノ言渡アリシコトヲ申立ル
ヲ得但其行爲ヲナスニ依リ之レヨリ大ナル費用ヲ生
スルトキ後日其要求ヲナスノ權ヲ妨ケラル、コトナ
シ

物件ノ呈出又ハ供給ヲナサシムル爲メノ權制執行ニ
ハ本條ノ規定ヲ適用セサルモノトス

第七百七十四條 他人ヲ以テ行爲ヲナサシムルコトヲ
得サル場合ニ於テ其行爲特ニ負債者ノ意ニ隨テナス
コトヲ得ルモノナルトキハ申立ニ依リ始審ノ訴訟裁
判所ハ負債者ニ對シ金額千五百マルク以下ノ罰金又
ハ拘留ヲ以テ其行爲ヲナスヘキコトヲ言渡スヲ得

此規定ハ婚姻取結ヲ言渡ス場合ニハ之ヲ適用セス婚
姻上生活恢復ノ判決言渡ノ場合ニアリテハ各邦法律
ニ於テ婚姻上生活ノ恢復ヲ強テ行ハシムルコトヲ許
ストキニ限り之ヲ適用スルモノトス

第七百七十五條 負債者行爲ヲナスヘカラサルノ義務
又ハ行爲ヲ忍耐スヘキノ義務ニ背反スルトキ始審ノ
訴訟裁判所ハ債主ノ申立ニ依リ負債者ニ對シ其各背
反ニ付キ千五百マルク以下ノ罰金又ハ六月以下ノ拘
留ヲ言渡スヘキモノトス合刑ノ限度ハ二年ノ拘留ヲ
超過スルコトヲ許サス
其言渡前豫メ刑ノ嚴戒ヲナスヘシ其嚴戒ハ義務ヲ言
渡ス判決書ニ掲ケサルトキハ申立ニ依リ始審ノ訴訟

裁判所ニ於テ之ヲ言渡スモノトス
亦負債者ハ債主ノ申立ニ依リ其後背反ニ依テ生スル
損害ニ付キ一定ノ時間保證ヲナスヘキノ言渡ヲ受ル
コトアルモノトス

第七百七十六條 第七百七十三條ヨリ第七百七十五條
マテニ從ヒ言渡スヘキ裁判ハ豫メ口頭上ノ審問ナク
シテ之ヲナスコトヲ得其裁決前負債者ハ尋問セラル
ヘキモノトス

第七百七十七條 負債者第七百七十三條第七百七十五
條ノ規定ニ從ヒ忍耐スヘキ行爲ニ對シ抗抵ヲナスト
キ債主ハ其抗抵ヲ除去スル爲メ第七百七十八條第三
項ノ規定ニ從ヒ處分ヲナスヘキ裁判所使吏ヲ立會ハ

シムルコトヲ得

第七百七十八條 代償ヲ要求スル債主ノ權利ハ此章ノ
規定ノ爲メ變更ヲ受ルコトナシ
債主ハ始審ノ訴訟裁判所ニ訴訟ヲ以テ代償ノ請求ヲ
申立ツヘキモノトス

第七百七十九條 負債者意思ノ陳述ヲナスヘキノ言渡
ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定シタルトキ直ニ其陳
述ヲナシタルモノト看做ス報償ヲ得ルニアラサレハ
意思ノ陳述ヲナサルコトヲ得ヘキトキハ第六百六
十四條第六百六十六條ノ規定ニ從ヒ確定判決ノ執行
公製書ヲ交付シタルトキ直ニ其陳述ヲナシタルノ効
アルモノトス

第一項ノ規定ハ婚姻取結ヲ言渡ス場合ニハ之ヲ適用
モサルモノトス

第四章 明告宣誓及拘留

第七百八十條 明告宣誓ヲナサシムルニ付テハ負債者
獨逸國ニ有スル住所ヲ管轄スル區裁判所其住所ナキ
トキハ其滯在地ヲ管轄スル區裁判所執行裁判所タル
ノ權限ヲ有スルモノトス

第七百八十一條 其手續ハ明告宣誓ヲナサシムル爲メ
ニスル負債者ノ喚出ヲ以テ始マルモノトス
負債者其宣誓ヲナスノ義務ヲ爭フトキハ裁判所其抗
辯ニ付キ判決ヲ以テ裁決スヘキモノトス其宣誓ハ判
決ノ確定シタル後始メテ之ヲナスモノトス

第七百八十二條 明告宣誓ヲナス爲メ定メタル期日ニ
出廷セス又ハ理由ヲクシテ宣誓ヲナスコトヲ拒ム負
債者ニ對シ裁判所ハ申立ニ依リ強テ宣誓ヲナサシム
ル爲メ拘留ヲ命スヘキモノトス

第七百八十三條 拘留セラレタル負債者ハ何時ニテモ
拘留地ノ區裁判所ニ宣誓ヲナサンコトヲ申立ルヲ得
其申立ハ遅延ヲク之ヲ認許スヘシ
其宣誓ヲナシタル後負債者ニハ拘留ヲ釋放シ債主ニ
ハ其旨ヲ通知スルモノトス

第七百八十四條 第七百十一條ニ記載シタル明告宣誓
ヲナシタル負債者ハ後日財産ヲ所得シタルコトヲ證
明セラルトキニ限リ他ノ債主ニ對シテモ亦再度宣

誓ヲナスノ義務アルモノトス
第七百八十五條 拘留ハ左ニ掲ル者ニ對シテハ之ヲナ
スコトヲ得ス

第一 開會期限中獨逸立法院ノ議員但其院拘留ノ
執行ヲ承諾スルトキハ此限ニアラス

第二 出戰ノ軍隊又ハ戰役ニ服シタル軍艦ノ乗組
員ニ屬スル軍人軍屬

第三 船舶出帆ノ用意ヲナシタルトキ船長船員及
其他總テ航海船ニ備入レラレタル者

第七百八十六條 拘留ハ左ニ掲ル者ニ對シテハ之ヲ中
止スルモノトス

第一 開會期限間獨逸立法院ノ議員但其院其釋放

ヲ要求スルトキ

第二 出戰ノ軍隊又ハ戰役ニ服シタル軍艦ニ召集
セラル、軍人軍屬但其關係ノ繼續中ニ限ル

第七百八十七條 拘留ノ執行ニ依リ直ニ著ク健康ヲ害
スルノ恐レアル負債者ニ對シテハ其狀況ノ繼續中拘
留ヲ執行スルコトヲ許サス

第七百八十八條 拘留ハ審問被拘留者又ハ處刑被拘留
者ト別異セル場所ニ於テ之ヲ執行スルモノトス

第七百八十九條 裁判所ハ拘留ヲ命スルノ際拘留命令
狀ヲ發スヘキモノトス其命令狀ニハ債主負債者及拘
留ノ理由ヲ記載スヘシ

第七百九十條 負債者ノ拘留ハ裁判所使吏之ヲナスモ

ノトス拘留命令狀ハ拘留ノ際負債者ニ之ヲ示シ其求
メニ依リテハ其贖本ヲ交付スヘキモノトス

第七百九十一條 裁判所使吏ハ官吏僧侶又ハ公立教育
場ノ教師ヲ拘留スル前其所属官署ニ通知ヲナスヘキ
モノトス其拘留ハ所属官署負債者ノ職務上代理ヲ任
シタル後始メテ之ヲナスコトヲ許ス其官署ハ遅延ナ
ク必要ナル命令ヲ發シ及其旨ヲ裁判所使吏ニ通知ス
ルノ義務アルモノトス

第七百九十二條 債主ハ賄料ヲ併セ拘留ニ依テ生スル
費用ヲ毎月前拂ニスヘキモノトス少クモ一月間ノ支
拂ヲナサ、ルトキハ負債者ヲ監獄ニ入ル、コトヲ許
サス遅クドモ其支拂ヲシタル月ノ最終日ノ正午マ

テニ更ニ支拂ヲナサ、ルトキ負債者ハ職權ヲ以テ拘
留ヲ釋放セラル、モノトス更ニ支拂ヲナサ、ルトキ依
リ又ハ自己ノ承諾ナクシテ債主ノ申立ニ依リ釋放セ
ラレタル負債者ニ對シテハ同一債主ノ申立ニ依リ更
ニ拘留スルコトヲ許サス

第七百九十三條 陸海常備軍ノ軍人軍属ニ對シ拘留ヲ
執行スヘキトキ裁判所ハ其所属軍事官署ニ其執行ヲ
依頼スヘキモノトス

第七百九十四條 拘留ハ六月ノ期限ヲ超ユルコトヲ許
サス六月ヲ經過スルノ後負債者ハ職權ヲ以テ拘留ヲ
釋放セラル、モノトス

第七百九十五條 第七百一十一條ニ記載シタル明告宣誓

ヲ拒絕スルニ依リ六月ノ拘留ヲ執行セラレタル負債者ハ其後財産ヲ所得シタルコトヲ證明セラル、トキニ限り他債主ノ申立ニ依リテモ亦拘留ヲ以テ再度其宣誓ヲナサシメラル、コトアルモノトス

第五章 押置及臨時處分

第七百九十六條 押置ハ金錢要求又ハ金錢要求ニ變スルコトヲ得ル請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對シテナス權制執行ヲ保全スル爲メ之ヲナスモノトス
押置ハ請求有期ノモノナルモ之ヲナスニ妨ケナキモノトス

第七百九十七條 物件ノ押置ハ之ヲナサ、レハ判決ノ執行ヲ無効トナシ又ハ甚ク困難ナラシムルノ恐レアリ

ルトキ之ヲナスコトヲ得ルモノトス

充分ナル押置ノ理由ト看做スヘキモノハ判決ヲ外國ニ於テ執行スヘキトキナリトス

第七百九十八條 身體ノ保全押置ハ負債者ノ財産ニ對シテナス權制執行ノ危險ナル場合ニ於テ之ヲ保全スル爲メ必要ナルトキニ限りナスコトヲ得

第七百九十九條 押置ノ命令ニ付テハ本事件ノ裁判所并ニ押置セララルヘキ物件又ハ身體上自由ヲ制限セララルヘキ人ノ現在スル地ヲ管轄スル區裁判所其權限ヲ有スルモノトス

第八百條 押置申立ニハ請求及其金額又ハ價格并ニ押置ノ理由ヲ記載スヘシ

請求及押置理由ハ之ヲ證明スヘキモノトス
其申立ハ裁判所書記ニ陳述シテ筆記セシムルコトヲ
得

第八百一條 裁決ハ豫メ口頭上審問ナクシテ之ヲナス
コトヲ得

裁判所ハ請求又ハ押置理由ヲ證明セサルトキト雖對
手ニ生セントスル損害ニ付キ其見込ヲ以テ定ムヘキ
保證ヲナストキハ押置ヲ命スルコトヲ得裁判所ハ請
求及押置理由ヲ證明スルトキト雖其保證ヲナスニア
ラサレハ押置ノ命令ヲ發セサルコトヲ得

第八百二條 其申立ニ付テノ裁決ハ豫メ口頭上審問ヲ
ナス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲナシ其他ノ場

合ニ於テハ決議ヲ以テ之ヲナスモノトス

押置ヲナサシメタル原被告一方ハ押置ヲ命スル決議
ヲ送達セシムヘキモノトス

押置申立ヲ却下シ又ハ豫メ保證ヲナスコトヲ必要ナ
リト言渡ス決議ハ對手ニ之ヲ通知セサルモノトス

第八百三條 押置命令書ニハ藏寄ニ依テ押置ノ執行ヲ
停止シ及負債者執行セラレタル押置ノ廢棄ヲ申立ル
ノ權ヲ得ル金額ヲ確定スヘキモノトス

第八百四條 押置ヲ命スル決議ニ對シテハ抗辯ヲナス
コトヲ得ルモノトス
抗辯スル原被告ノ一方ハ押置ノ廢棄ヲ申立ント欲ス
ル理由ヲ對手ニ通知シテ口頭上審問ニ之ヲ喚出スヘ

キモノトス

抗辯ヲナスモ押置ノ執行ハ之ヲ停止セサルモノトス

第八百五條 抗辯ヲナストキハ押置ノ當否ニ付キ終局

判決ヲ以テ裁決スヘキモノトス

裁判所ハ押置ノ全部又ハ一部ヲ認可シ又ハ變更シ又

ハ廢棄スルコトヲ得亦其見込ヲ以テ定ムヘキ保證ヲ

ナスニアラサレハ其認可又ハ變更又ハ廢棄ヲナサ、

ルコトヲ得

第八百六條 本事件裁判關係トナラサルトキ押置裁判

所ハ申立ニ依リ豫メ口頭上審問ナクシテ其定ムヘキ

期限内ニ訴訟ヲ提起スヘキコトヲ押置命令ヲ發セシ

メタル原告ノ一方ニ命スヘキモノトス

其命令ニ從ハサルトキハ申立ニ依リ終局判決ヲ以テ

押置ノ廢棄ヲ言渡スヘキモノトス

第八百七條 押置ノ廢棄ハ押置ヲ認可シタル後ト雖狀

況ノ變更シタルニ依リ特ニ押置理由ノ消滅シ又ハ裁

判所ノ見込ヲ以テ定ムヘキ保證ヲ申込ニ依リ之ヲ申

立ルコトヲ得

其裁決ハ終局判決ヲ以テ之ヲ言渡スヘキモノトス其

裁決ハ押置ヲ命シタル裁判所之ヲナシ本事件裁判關

係トナリタルトキハ本事件ノ裁判所之ヲナスモノト

ス

第八百八條 押置ノ執行ニハ亦權制執行ニ付テノ規定

ヲ適用スルモノトス但以下數條ニ於テ之ニ違フ規定

ヲ掲ルモノハ此限ニアラス
 第八百九條 押置命令狀ハ其命令ヲ發シタル後債主又ハ負債者ニ於テ權利相續アリタル場合ニ限り執行文ヲ要スルモノトス
 押置命令ノ執行ハ其命令ヲ言渡シ又ハ申立ヲ以テ其命令ヲ發セシメタル原被告一方ニ送達シタル日ヨリ二週ヲ經過シタルトキハ之ヲ許サ、ルモノトス
 第八百十條 動産ニ對スル押置ノ執行ハ質取ヲ以テ之ヲナスモノトス其質取ハ他ノ各質取ト同一ノ原則ニ從テ之ヲナシ第七百九條ニ定メタル効力ヲ有スル質主權ヲ生スルモノトス要求ノ質取ニ付テハ押置裁判所執行裁判所タルノ權限ヲ有ス

質取シタル金錢及分配手續ニ於テ債主ノ有ニ歸シタル賣得金ノ額ハ之ヲ藏寄スルモノトス
 執行裁判所ハ申立ニ依リ動物件著ク價額ヲ減スルノ恐レアルトキ又ハ其物件ノ保存ニ依リ不相當ノ費用ヲ生スヘキトキ之ヲ公賣シテ其賣得金ヲ藏寄スヘキコトヲ命スルヲ得
 第八百十一條 不動産ニ對スル押置ノ執行ハ各邦法律ヲ以テ之ヲ定ルモノトス
 第八百十二條 身體ノ保全押置ノ執行ハ拘留ヲ以テスル場合ニ於テハ第七百八十五條ヨリ第七百九十四條マテノ規定ニ從テ之ヲナシ其他ノ身體上自由ヲ檢束ヲ以テスル場合ニ於テハ拘留ノ制限ニ準據シ押置裁

判所ノ發スヘキ特別命令ニ從テ之ヲナスモノトス
 第八百十三條 執行シタル押置ヲ押置命令ニ定メタル
 金額ノ藏寄ヲ得テ廢棄スルトキハ執行裁判所之ヲナ
 スモノトス
 執行裁判所ハ押置ノ繼續ニ依リ別段ノ費用ヲ要シ申
 立テ以テ押置ヲナサシメタル原被告ノ一方必要ナル
 金額ヲ前拂セサルトキニモ亦押置ノ廢棄ヲ命スルコ
 トヲ得
 本條ニ記載シタル裁判ハ豫メ口頭上ノ審問ナクシテ
 之ヲナスコトヲ得
 押置ヲ廢棄スル決議ニ對シテハ即時故障ヲ申立ルコ
 トヲ得

第八百十四條 訴訟事件ニ關スル臨時處分ハ現狀ノ變
 更ニ依リ原被告一方ノ權利ノ實行ヲ無効トナシ又ハ
 著ク困難ナラシムルノ恐レアルトキ之ヲナスコトヲ
 許スモノトス
 第八百十五條 臨時處分ノ命令及其他ノ手續ニハ亦押
 置命令及押置手續ニ付テノ規定ヲ適用スルモノトス
 但以下數條ニ於テ之ニ違フ規定ヲ掲ルモノハ此限ニ
 アラス
 第八百十六條 臨時處分ヲ發スルニ付テハ本事件ノ裁
 判所權限ヲ有スルモノトス
 其裁決ハ切迫ナル場合ニアリテハ豫メ口頭上ノ審問
 ナクシテ之ヲナスコトヲ得

第八百十七條 裁判所ハ其見込ヲ以テ目的ヲ達スル爲メニハ何レノ命令ヲ要スルヤヲ定ルモノトス
臨時處分ハ保管ヲナシ并ニ對手ニ行爲ヲナスコトヲ命シ又ハ禁シ特ニ地所ノ賣讓又ハ負擔又ハ質入ヲ禁スルコトヲ以テモ亦之ヲナスコトヲ得

第八百十八條 特別ノ狀況アルトキニ限り保證ヲ得テ臨時處分ノ廢棄ヲナスコトヲ得

第八百十九條 臨時處分ハ争ヒトナリタル權利上關係ニ付キ一時ノ狀況ヲ處分スル爲メニモ亦之ヲナスコトヲ得但其處分ハ特ニ繼續スル權利上關係ニ付キ重大ナル損害ヲ除キ又ハ切迫ナル暴力ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ依リ之ヲ必要ナリトスルトキニ限ル

第八百二十條 切迫ナル場合ニ於テハ訴訟事件ノ現在スル地ヲ管轄スル區裁判所臨時處分ノ當否ニ付テノ口頭上審問ノ爲メ對手ヲ本事件ノ裁判所ニ喚出スヘキ期限ヲ定メテ臨時處分ヲ發スルコトヲ得

此期限ノ空ク經過シタル後區裁判所ハ其發シタル處分ヲ申立ニ依リ廢棄スヘキモノトス
本條ニ記載シタル區裁判所ノ裁判ハ豫メ口頭上審問ヲクシテ之ヲナスコトヲ得

第八百二十一條 此章ノ規定ニ謂ヘル本事件ノ裁判所ト看做スヘキモノハ始審ノ裁判所ナリトシ本事件控訴裁判ニ於テ裁判關係トナリタルトキハ控訴裁判所ナリトス

第八百二十二條 切迫ナル場合ニ於テハ裁判長此章ニ記載シタル申立ニ付キ裁判所ニ代テ裁決スルコトヲ得但其申立ノ完結豫メ口頭上審問ヲナスコトヲ要セサルトキニ限ル

第九編 督促裁判手續

第八百二十三條 請求又ハ權利ヲ申出テシムル爲メ公告ヲ以テスル裁判上督促ハ法律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲナスコトヲ得其督促ハ申出ヲ怠ルニ依リ權利上損害ヲ生セシムルノ効力アルモノトス 督促裁判手續ニ付テハ法律ニ定メタル裁判所權限ヲ有スルモノトス

第八百二十四條 申立ハ書面ヲ以テ又ハ裁判所書記ニ筆記セシメテ之ヲナスコトヲ得其裁決ハ豫メ口頭上審問ナクシテ之ヲナスコトヲ得 申立ヲ認許スルトキ裁判所ハ督促ヲ發スヘキモノトス其督促ニハ特ニ左ノ件々ヲ記載スヘシ

第一 申立人

第二 請求及權利ヲ遅クトモ督促期日ニ申出ツヘ

キコトノ督促

第三 申出ヲナサ、ルトキ生スル權利上損害

第四 督促期日

第八百二十五條 督促ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ貼附

シ及獨逸官報ニ記載シテ之ヲナシ其他法律ニ於テ此

場合ニ關シ之ニ違フ規定ヲ設ケサルトキニ限り第百

八十七條ニ於テ喚出ニ付キ定メタル規定ニ從ヒ之ヲ

ナスモノトス

第八百二十六條 貼附スヘキ書類ヲ貼附ノ場所ヨリ早

ク取除キタルトキ又ハ再度公告ノ場合ニ於テ規定上

ノ中間期限ヲ守ラサルトキト雖公告ノ効力ニハ關係
ナキモノトス

第八百二十七條 獨逸官報ニ督促ノ記載ヲナシ又ハ第

一記載ヲナシタル日ト督促期日トノ間ハ少クトモ六

週ノ時間アルヘキモノトス但法律ニ之ニ違フ規定ヲ

掲ルトキハ此限ニアラス

第八百二十八條 督促期日ノ終結後ト雖失權判決ノ言

渡前ニナシタル申出ハ之ヲ期限内ノ申出ト看做スヘ

キモノトス

第八百二十九條 失權判決ハ申立ニ依リ公行スル法廷

ニ於テ之ヲ言渡スヘキモノトス

其判決ノ言渡前精密ナル索知ヲ命シ特ニ申立人ノナ

シタル主張ノ眞實ニ付キ宣誓ヲ以テスル保證ヲ命スルコトヲ得

失權判決ノ言渡ヲ求ル申立ヲ却下スル決議并ニ失權判決ニ加ヘタル制限及設若ニ對シテハ即時故障ヲ申立ルコトヲ得

第八百三十條 申立ヲ辯明スル爲メ申立人ノ主張シタル權利ヲ争フ申出ヲナストキハ場合ノ狀況ニ從ヒ申出テタル權利ニ付テ終局裁決ニ至ルマテ督促裁判手續ヲ延期シ又ハ失權判決ニ於テ申出テタル權利ヲ執行スルコトヲ得セシムヘキモノトス

第八百三十一條 申立人督促期日ニ出廷セサルトキハ其申立ニ依リ更ニ期日ヲ定ムヘキモノトス其申立ハ

督促期日ヨリ經過スル六月ノ期限内ニ限り之ヲナスコトヲ得

第八百三十二條 督促裁判手續完結ノ爲メ更ニ期日ヲ定ルトキハ其期日ノ公告ヲ要セサルモノトス

第八百三十三條 裁判所ハ失權判決ノ要旨ノ公告ヲ獨逸官報ニ一回記載シテナスコトヲ命スルヲ得

第八百三十四條 失權判決ニ對シテハ上訴ヲナスコトヲ得ス

失權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對シ提起スヘキ訴訟ヲ以テ督促裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ルコトヲ得

第一 法律ニ於テ督促裁判手續ヲ許ス場合ノ存セ

サルトキ

第二 督促ノ公告ヲナサ、ルトキ又ハ法律ニ規定シタル督促ノ方法ヲ守ラサルトキ

第三 規定上ノ督促期限ヲ守ラサルトキ

第四 判決裁判官法律ニ依リ裁判官ノ職務執行ヲ禁止セラレシトキ

第五 其ナシタル申出ニ拘ハラズ請求又ハ權利ヲ法律ニ從ヒ判決ニ採用セザリシトキ

第六 罰セラルヘキ行爲ニ付キ故態恢復ノ訴訟ヲナスコトヲ得ル要件ノ存スルトキ

第八百三十五條 其不服訴訟ハ一月ノ不變期限内ニ之ヲ提起スヘキモノトス其期限ハ原告失權判決ヲ知了

シタル日ヲ以テ始マルモノトス但訴訟第八百三十四條第四第六ニ記載シタル不服理由ノ一ニ憑據シ原告其理由ヲ其日ニ未タ知了セザリシ場合ニ於テハ其理由ヲ知了シタル日ヲ以テ始マル

失權判決言渡ノ日ヨリ起算シ十年ヲ經過シタル後ハ訴訟ヲナスコトヲ得ス

第八百三十六條 裁判所ハ第三百三十八條ノ要件ナキトキト雖數個督促ノ連合ヲ命スルコトヲ得

第八百三十七條 紛失シ又ハ破滅シタル爲換手形及商法第三百一條第三百二條ニ記載シタル證書ノ無効言渡ノ爲メニナス督促裁判手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用スルモノトス

此規定ハ法律ニ於テ督促裁判手續ヲ許ス他ノ證書ニ
關シテハ其法律ニ別段ノ規定ヲ掲ケサル場合ニ限リ
之ヲ適用スルモノトス

第八百三十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ讓渡スル
トヲ得ルモノニシテ白地裏書ヲ備ヘタル證券ニアリ
テハ最終ノ持主督促裁判手續ヲ求ルノ申立ヲナスノ
權ヲ有スルモノトス

其他ノ證書ニアリテハ其證書ヨリ生スル權利ヲ執行
スルコトヲ得ル者其申立ヲナスノ權ヲ有スルモノト
ス

第八百三十九條 督促裁判手續ニ付テハ證書ニ履行地
トシテ記載セル地ノ裁判所權限ヲ有スルモノトス證

書ニ其記載ナキトキハ發行者普通ノ裁判管轄ヲ有ス
ル裁判所權限ヲ有シ其裁判所ナキトキハ發行者發行
ノ際普通ノ裁判管轄ヲ有セシ裁判所權限ヲ有スルモ
ノトス

證書ヲ發行セラレタル請求ヲ地所帳又ハ書入質帳ニ
記入シタルトキハ其物件所在地ノ裁判所特ニ權限ヲ
有スルモノトス

第八百四十條 申立人ハ其申立ヲ辯明スル爲メ左ノ義
務ヲ有スルモノトス

第一 證書ノ謄本ヲ呈出シ又ハ證書ノ要旨及證書
ヲ充分ニ知了スル爲メ必要ナル總テノモノヲ舉
クヘキコト

第二 證書ノ紛失并ニ督促裁判手續ヲ申立ル權利
ノ定マル事實ヲ證明スヘキコト

第三 供述ノ眞實ナルコトニ付キ宣誓ヲ以テ保證
ヲナスコトヲ申出ツヘキコト

第八百四十一條 證書ノ持主ハ督促ヲ以テ遅クトモ督
促期日ニ其權利ヲ裁判所ニ申出及證書ヲ呈出スヘキ
コトヲ督促ヲ以テ督促セラル、モノトス權利ノ損害
トシテ證書ノ無効言渡ヲナスコトヲ嚴戒スヘシ
第八百四十二條 督促ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ貼附
シ及督促裁判所ノ所在地ニ相場會所ノ存スルトモハ
其會所内ニ貼附シ并ニ第八十七條第二項ニ記載シ
タル公告紙ニ三回記載シテ之ヲナスモノトス

裁判所ハ尙ホ他ノ公告紙ニ數回記載スヘキコトヲ命
スルヲ得

第八百四十三條 利子票又ハ利益配當票ヲ時々發行ス
ル有價證券ニアリテハ其督促期日ハ紛失シタルコト
ヲ證明セシ時以來發行シタル第一ノ利子票又ハ利益
配當票支拂滿期トナリ其滿期以來督促期日マテニ六
月ノ經過スル方法ヲ以テ定ムヘキモノトス
失權判決ノ言渡前申立人ハ證書ヲ發行シタル官署金
庫又ハ場局ニ於テ紛失シタルコトヲ證明セシ時以來
新ナル票ヲ發行セシムル爲メ證書ヲ呈出セサリシコ
ト及申立人ヨリ他ノ人ニ新ナル票ヲ發行セサリシコ
トニ付キ六月ノ期限經過後交付シタル證明書ヲ呈出

スヘキモノトス

第八百四十四條 利子票又ハ利益配當票ヲ四年ヨリ長キ時間ノ爲メ最後ニ發行シタル有價證券ニアリテハ其督促期日ハ紛失シタルコトヲ證明セシ時以來其票中四年ノ爲メニシタルモノ支拂滿期トナリ最後ニ滿期トナリタルモノ、支拂滿期以來督促期日マテニ六月ノ經過スル方法ニ依リ定ルヲ以テ足レリトス利子又ハ利益配當ヲ拂渡サ、ル時間ノ票ハ之ヲ限外ナリトス

失權判決ノ言渡前申立人ハ其發行シタル官署金庫又ハ場局ニ於テ前項ニ記載シタル四年限リ及四年以後ニ於テ支拂滿期トナル票ヲ申立人ヨリ他ノ者呈出セ

サリシコトニ付キ六月ノ期限經過後ニ交付シタル證明書ヲ呈出スヘキモノトス督促ヲ發シタル以後ニ於テ新ナル票ヲ發行シタルトキハ其證明書ニ第八百四十三條第二項ニ記載シタルコトヲモ亦記載スヘシ

第八百四十五條 利子票又ハ利益配當票ヲ發行シタルモ復之ヲ發行セサル有價證券ニアリテ第八百四十三條第八百四十四條ノ要件アラサリシトキ其督促期日ハ最後ニ發行シタル票ノ支拂期日以來督促期日マテニ六月ノ經過スル方法ヲ以テ定ムヘキモノトス

第八百四十六條 獨逸官報ニ督促ノ第一記載ヲナス時未タ始マラサル支拂期日ヲ負債證書ニ記載シタル場合ニ於テ第八百四十三條ヨリ第八百四十五條マテノ

要件存セサルトキ督促期日ハ其支拂期日以來六月ノ經過スル方法ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトス

第四百四十七條 獨逸官報ニ督促ノ第一記載ヲナシタル日ト督促期日トノ間ハ少クトモ六月ノ時間アルヘキモノトス

第四百四十八條 失權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリトスルノ言渡ヲナスヘキモノトス

失權判決ノ要旨ハ獨逸官報ヲ以テ公告スヘキモノトス

不服訴訟ニ依リ言渡シタル判決ノ公告ハ判決確定シタル後前項同一ノ方法ヲ以テ之ヲナスヘキモノトス但其判決ヲ以テ無効ノ言渡ヲ廢棄スルトキニ限ル

第四百四十九條 第四百四十三條ヨリ第四百四十八條

マテノ規定ハ第四百三十七條第一項ニ記載シタル證書ヨリ他ノ無記名證券又ハ裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得ルモノニシテ白地裏書ヲ備ヘタル證券ニモ亦之ヲ適用ス但證書ヲ發行セラレタル請求ヲ地所帳又ハ書入質帳ニ記入セサリシトキニ限ル

督促裁判手續ニ付キ尙ホ他ノ要件又ハ一層嚴重ナル要件ヲ掲ル規定ハ前項ノ規定ノ爲メ變更ヲ受ルコトナシ

第四百五十條 失權判決ヲナサシメタル者ハ證書ニ依リ義務ヲ負擔シタル者ニ對シ證書ヨリ生スル權利ヲ執行スルノ權ヲ有スルモノトス

第十編 仲裁裁判官ノ裁判手續

第八百五十一條 一訴訟ノ判決ヲ一名又ハ數名ノ仲裁
裁判官ニ於テナスヘシトシテ契約ハ原被告訴訟事件ニ
付キ和解ヲ取結ノ權アル場合ニ限り法律上効力ヲ有
スルモノトス

第八百五十二條 將來ニ係ル訴訟ニ付テノ仲裁契約ハ
一定ノ權利上關係及之ニ依テ生スル訴訟ニ關セサル
トキハ法律上効力ヲ有セサルモノトス

第八百五十三條 民法ノ規定ニ從ヒ口頭上取結ヒタル
仲裁契約効力ヲ有スル場合ニ於テハ原被告各方ハ其
契約ニ付キ證書ヲ作ルニトテ求ルヲ得

第八百五十四條 仲裁契約ニ仲裁裁判官ノ指名ニ付テ

ノ定款ヲ掲ケサルトキ原告各方ハ仲裁裁判官一名ヲ指名スルモノトス

第八百五十五條 仲裁裁判官ヲ指名スルノ權原告雙方ニ屬スルトキ擔當スル一方ハ對手ニ書面ヲ以テ仲裁裁判官ヲ指名シ同時ニ一週ノ期限内ニ對手モ亦同一ノ手續ヲナスヘキコトヲ督促スヘキモノトス
此期限空ク經過スルノ後ハ權限ヲ有スル裁判所擔當スル一方ノ申立ニ依リ仲裁裁判官ヲ指名スルモノトス

第八百五十六條 原告ノ一方ハ仲裁裁判官ノ指名ノ通知ヲ對手ノ受取タルトキ直ニ對手ニ對シ其指名ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

第八百五十七條 仲裁契約ニ指名セザリシ仲裁裁判官死去シ又ハ其他ノ理由ニ依リ退去シ又ハ仲裁裁判官ノ職務執行ヲ拒絕スルトキ其指名ヲナシタル一方ハ對手ノ督促ニ依リ一週期限内ニ他ノ仲裁裁判官ヲ指定スヘキモノトス此期限空ク經過スルトキハ權限ヲ有スル裁判所擔當スル一方ノ申立ニ依リ仲裁裁判官ヲ指名スルモノトス

第八百五十八條 仲裁裁判官ハ裁判官ヲ忌避スルノ權アルト同一ノ理由及要件ニ依リ之ヲ忌避スルコトヲ得
其他忌避ハ仲裁契約ニ指名セザリシ仲裁裁判官其義務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキ之ヲナスコトヲ得

婦未丁年者、聾者、啞者及公權ヲ剝奪セラレタル者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

第八百五十九條 仲裁契約ハ原被告雙方ノ契約ヲ以テ豫メ左ノ場合ノ爲メ處置ヲナサ、リシトキハ効力ヲ失フモノトス

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁裁判官ニ指名シ其裁判官死去シ又ハ其他ノ理由ニ依リ退去シ又ハ仲裁裁判官ノ職務ヲ引受ルコトヲ拒絕シ又ハ其裁判官ト取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其義務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキ

第二 仲裁裁判官其決議ノ可否同數ナルコトヲ原被告雙方ニ通告スルトキ

第八百六十條 仲裁裁判官ハ仲裁裁判ノ言渡前原被告雙方ヲ尋問シ及爭ヒノ理由トナル事件上關係ヲ索知スヘキモノトス但其索知ハ必要ナリト認ルトキニ限ル

仲裁裁判手續ニ付キ原被告雙方ノ契約ナキトキハ仲裁裁判官其見込ヲ以テ其手續ヲ定ルモノトス

第八百六十一條 仲裁裁判官ハ其面前ニ任意出席スル證人及鑑定人ヲ尋問スルコトヲ得

仲裁裁判官ハ證人及鑑定人ノ宣誓及原被告宣誓ヲナサシムルノ權ナキモノトス

第八百六十二條 仲裁裁判官裁判官ノ處分ヲ必要ナリト認メ自ラ之ヲナスノ權ナキトキハ權限ヲ有スル裁

判所一方ノ申立ニ依リ其處分ヲナスヘキモノトス但其申立ヲ許サレタルモノト認ルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ノ尋問又ハ宣誓ヲ命シタル裁判所ハ證言又ハ鑑定ヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦ナスノ權アルモノトス

第八百六十三條 仲裁裁判官ハ仲裁裁判官ノ裁判手續ノ許サレサルコトヲ主張スルトキ特ニ法律上有効ナル仲裁契約ノ存立セサルコト又ハ仲裁契約裁決スベキ訴訟ニ關係ナキコト又ハ仲裁裁判官其職務ヲ執行スルノ權ナキコトヲ申立ルトキト雖仲裁裁判手續ヲ繼續シ及仲裁判決ヲ言渡スコトヲ得

第八百六十四條 數名ノ仲裁裁判官仲裁判決ヲ言渡ス

ヘキトキハ仲裁契約ニ別段ノ定メナキトキニ限り過半數ヲ以テ裁決スルモノトス

第八百六十五條 仲裁判決書ハ其調製ノ日ヲ記シテ仲裁裁判官之ニ署名シ原被告雙方ニハ仲裁裁判官ノ署名シタル公製書ヲ以テ送達シ及其送達證ヲ添ヘテ權限ヲ有スル裁判所書記局ニ之ヲ備置クヘキモノトス
第八百六十六條 仲裁判決ハ原被告雙方ノ間ニ於テ裁判所ノ確定判決ノ効力ヲ有スルモノトス
第八百六十七條 左ノ場合ニ於テハ仲裁判決ノ廢棄ヲ申立ルコトヲ得

- 第一 裁判手續ノ許サレサルモノナリシトキ
- 第二 仲裁裁決ヲ以テ原被告ノ一方ニ對シ其ナス

コトヲ禁止セラレタル行爲ヲナサシムルノ言渡
ヲナストキ

第三 原被告ノ一方裁判手續ニ於テ法律ノ規定ニ
從ヒ代理セラレサリシトキ但其一方訴訟ヲナス
コトヲ明諾又ハ黙諾セシトキハ此限ニアラス
第四 裁判手續ニ於テ原被告ノ一方ニ對シ法律上
ノ尋問ヲナサ、リシトキ

第五 仲裁判決ニ理由ヲ備ヘサリシトキ

第六 第五百四十三條第一ヨリ第六マテノ場合ニ
於テ故態恢復訴訟ヲナスコトヲ得ルノ要件存ス
ルトキ

仲裁判決ノ廢棄ハ原被告雙方ニ於テ別段ノ契約アル

トキニ限り第四第五ニ記載シタル理由ニ依リ之ヲナ
スコトヲ得ス

第八百六十八條 仲裁裁判ニ依テナス權制執行ハ其許
サレタルコトヲ執行判決ヲ以テ言渡シタルトキニ限
リ之ヲナスコトヲ得

其執行判決ハ仲裁判決ノ廢棄ヲ申立ルコトヲ得ル理
由ノ存スルトキハ之ヲ言渡スヘカラサルモノトス

第八百六十九條 執行判決言渡ノ後仲裁判決ノ廢棄ハ
原被告ノ一方其過失ナクシテ前裁判手續ニ於テ廢棄
ノ理由ヲ申立ルコト能ハサリシコトヲ證明シ及第八
百六十七條第六ニ記載シタル理由ニ依ルニアラサレ
ハ申立ルコトヲ得ス

第八百七十條 仲裁判決ノ廢棄ヲ求ル訴訟ハ前條ノ場
 合ニ於テハ一月ノ不變期限内ニ之ヲ提起スヘキモノ
 トス
 其期限ハ原告ノ一方廢棄ノ理由ヲ知了シタル日ヲ
 以テ始マリ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノト
 ス其判決確定ノ日ヨリ起算シ十年ヲ經過シタル後ハ
 訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
 仲裁判決ヲ廢棄スルトキハ同時ニ執行判決ノ廢棄ヲ
 言渡スヘキモノトス
 第八百七十一條 仲裁裁判官ノ指名又ハ忌避仲裁契約
 ノ解除仲裁裁判官ノ裁判手續ノ許サレサルコト仲裁
 判決ノ廢棄又ハ執行判決ノ言渡ニ關スル訴訟ニ付テ

ハ書面上仲裁契約ニ記載シタル區裁判所又ハ地方裁
 判所權限ヲ有シ其記載ナキトキハ裁判上請求ノ申立
 ニ付キ權限ヲ有スヘキ區裁判所又ハ地方裁判所權限
 ヲ有スルモノトス
 前項ニ從ヒ權限ヲ有スル數個ノ裁判所アルトキハ原
 被告ノ一方又ハ仲裁裁判所(第八百六十五條)ヨリ最初
 ニ關係セシメラレタル裁判所權限ヲ有スルモノトス
 第八百七十二條 臨終處分又ハ其他契約ニ出テサル處
 分ニ依リ法律ニ許サレタル方法ヲ以テ設ル仲裁裁判
 所ニハ亦此篇ノ規定ヲ適用スルモノトス
 以上朕親ヲ署名シ獨逸帝璽ヲ鈐ス
 千八百七十七年一月三十日伯林府ニ於テ制可ス

ウ井ルヘルム
フユルスト、フオン、ピスマルク

正誤

- 施行法第十一條第二行督促ノ下裁判ノ二字ヲ脱ス
- 訴訟法第七十四條第五行裁判ノ下所ノ一字ヲ脱ス
- 同 第二百十四條第一行書面ノ下ノハチノ衍
- 同 第二百二十四條第三行タノ下、ハ衍
- 同 第六百五十八條第四行制ノ下限ノ一字ヲ脱ス
- 同 第六百九十四條第二行讀ハ續ノ衍
- 同 第七百四十九條第三十九行支ハ収ノ衍
- 同 第七百五十七條第二行督促ノ下裁判ノ二字ヲ脱ス

獨逸學協會出版書目

平塚定二郎編輯

一 獨逸文法階梯

グナイスト氏原著 小松濟治譯 一名法治國論

一 建國

ラフエリニール氏纂輯 曲木如長譯井上毅荒川邦藏校閱

一 瓦敦堡憲法

シニールチエ氏原著 木下周一譯

一 國權

フオン、スタイン氏原著 荒川邦藏譯

一 國理

ブルンチエリイ氏原著 平田東助譯

一 國家論

シニールチエ氏原著 木下周一荒川邦藏共譯

一 亨漏生國法論

獨逸國博士スタールマン原著 和田維四郎譯

一 普布利特隣大王農政要略

驛遞局翻譯

一 獨逸郵便必携

フオン、スタイン氏原著 木下周一山脇玄共譯

一 兵制學

サンデル氏原著 長與專齋校閱 柴田承桂譯

一 公衆衛生論

前篇定價金三十五錢
後篇定價金三十錢

全三卷一冊定價各金四拾五錢
二冊以下續刻

全壹冊 一冊定價金貳拾錢

全六冊 一冊定價各金四錢五厘

全壹冊 定價金六錢

第一卷定價金四拾錢
第二卷定價金三拾五錢後卷續刻

第一第二第三卷定價各金四拾五錢第四
卷定價金七拾五錢第五第六第七卷定價
各金四拾五錢第八第九第十卷第十一卷
定價各金三拾五錢

全壹冊 定價金五十錢

全五冊 一冊定價各金貳拾錢

全三冊 一冊定價各金貳拾錢

全壹冊 定價金貳拾錢

ブルンチエリー氏原著 中根重一譯
 一 政治學
 山脇玄校閱 飯山正秀纂譯
 一 獨逸法律政治論纂
 ナルンチエリー氏原著 山脇玄飯山正秀共譯
 一 萬國戰爭條規
 リヨースレル氏演舌 荒川邦藏筆記
 一 獨逸學ノ利害及國家ニ對スルノ得失
 ヒユウダグレイ原著 平田東助校閱 中根重一譯
 一 獨逸學政典
 グロート氏田中稻城合著
 一 獨逸讀本
 ラフエリエル纂輯 曲木如長重譯
 一 巴威里憲法
 驛遞局翻譯
 一 獨逸貯金論
 リヨースレル氏述獨逸學協會翻譯
 一 佛國革命論
 山脇玄今村研介共譯
 一 獨逸刑罰法
 山脇玄今村研介共譯
 一 獨逸刑法
 山脇玄今村研介共譯
 一 獨逸治罪法

第一卷定價金四拾錢第二卷定價各
 卅錢第四第五卷定價各四拾錢後卷續刻
 第一第二第三第四卷各定價各金
 貳拾錢後卷續刻
 一卷定價金貳拾錢
 但シ後卷漸次出版
 全一冊定價金六錢
 第一卷定價金廿五錢第二
 第三卷定價各金三拾錢
 定價金四拾錢
 全壹冊定價金廿五錢
 全壹冊定價金四拾錢
 全壹冊定價金拾八錢
 全壹冊定價金二十錢
 全壹冊定價金四十錢
 全壹冊定價金四拾五錢

明治十八年九月十二日版權免許
 同 十八年十一月 出版

(定價金壹圓拾錢)

譯者

東京府士族
 山脇玄

同

山口縣平民
 今村研介

出版人

獨逸學協會

同府神田區西小川
 町壹丁目十五番地

同府四谷區四谷左
 門町六十六番地

東京府麴町區土手
 三番町七番地

36
92

賣捌所

島屋一介

東京府日本橋區河
國吉川町六番地

同

丸善商社書店

同府日本橋區
通三丁目

同

博聞社

同府京橋區銀座
四丁目壹番地

同

巖々堂

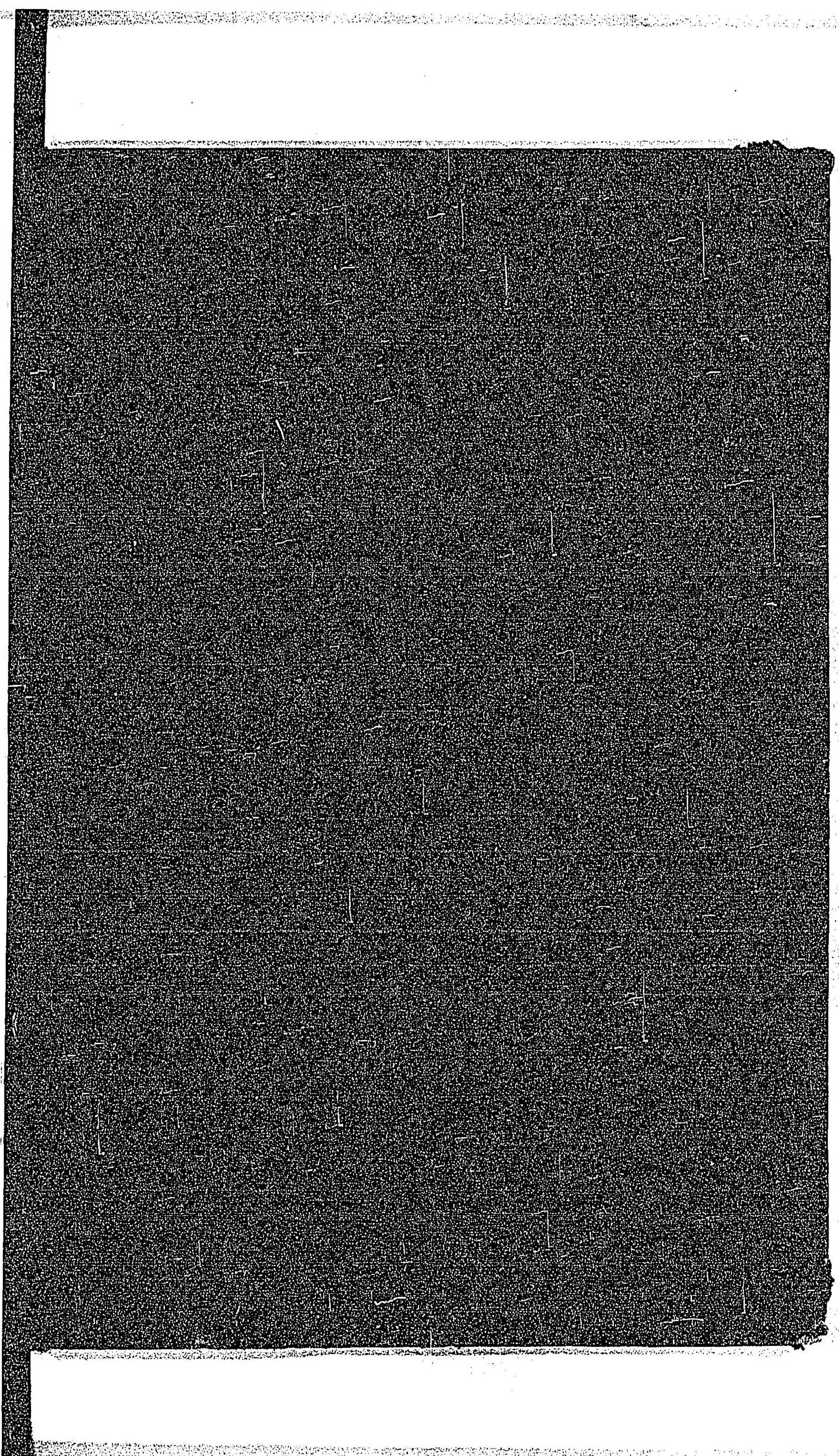
同府神田區淡路
町一丁目一番地

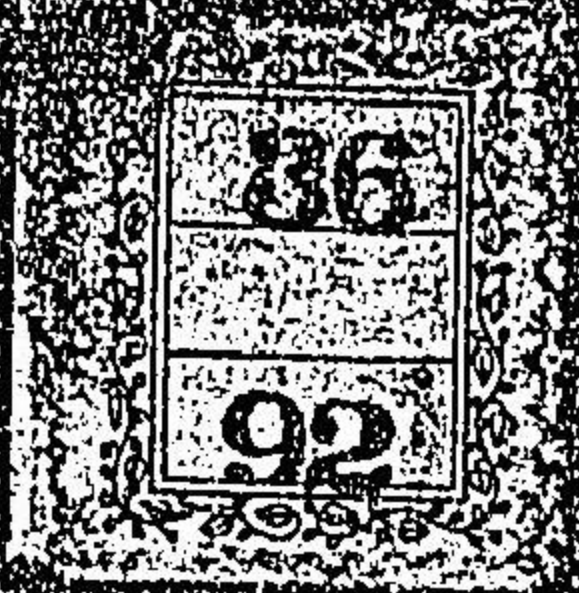
同

博聞分社

大坂府備後町
四丁目四番地

か





031067-002-1

CG3-5-01

独逸六法

山脇 玄

今村 研介 / 訳

M18-19

BBC-0669

